

J R 四国労組ニュース

2024年7月8日（No.1/1） 発行責任者／大谷 清 編集責任者／和田 庄平

第43回定期大会開催

スローガン

団結 創造 実践

すべての組合員と家族の明るい未来を実現させるべく

「ユニオンビジョン2023」の深度化を図り

誇りを持ち安心して働き続けることのできる環境づくりを推し進めよう！

J R四国労組は7月5日（金）、高松市「J Rホテルクレメント高松」にて第43回定期大会を開催。代議員、特別代議員や傍聴者が参集し、来賓を含め約140名出席のもと「安全・安定・安心輸送の確立」「組織の強化・拡大」「労働環境の改善」を柱とした2024年度の運動方針を満場一致で決定した。



大谷執行委員長

執行部を代表し挨拶に立った大谷執行委員長は、組合員に対し、各職場での奮闘とともに、J R四国労組運動への参画に謝意を述べた後、「コロナ禍は一定収束し、J R四国グループも明るい決算となった。組合もコミュニケーションの充実を重視し活動できた」と振り返り、「経済動向等不安定・不透明な状況にあるが、J R四国グループの責任組合として四国の活性化に繋げるべく、組合員の雇用と安全を第一義に取り組む」と述べた。

続いて、方針の3本柱に沿った所信について表明。「『要員不足』が安全に影響を与えないよう、チェック・提言機能を発揮するとともに、「労働組合の強みでもある『人と人との繋がり』をもって人財の定着、ひいては男女問わず生き生きと働ける環境整備に取り組む」とした。

大会には来賓として、連合香川・福家会長、J R四国・四之宮社長、ジェイアール四国バス・矢田社長、J R連合・荻山会長、J R四国労組議員団会議・山本団長（香川県議会議員）、四国労働金庫・杉本理事長、こくみん共済 coop 香川県推進本部・井出本部長らが出席し、連帯と激励の挨拶を受けた。



連合香川 福家会長 JR 四国 四之宮社長 ジェイアール四国バス 矢田社長 JR 連合 荻山会長 JR四国労組議員団会議 山本団長

議事では、執行部から「2024年度運動方針（案）・予算（案）」の提起があり、各支部、青年女性会議や専門部会を代表する代議員、特別代議員11名より安全の確立や人財確保、労働条件や働き方の改善、早期の人事賃金制度見直しに係る要望に関する質疑を受け、すべての議案が満場一致で可決された。最後は大谷執行委員長の力強い「団結ガンバロー」によって大会を締めくくった。※別紙：大会宣言



組織一丸となって取り組む想いをこめ、力強い「団結ガンバロー」で2024年度をスタート！

J R 四国労組ニュース

2024年7月8日（No.1 / 2終）発行責任者 / 大谷 清 編集責任者 / 和田 庄平

なお、定期大会終了後、第1回執行委員会を開催し、新役員の任務分担等をおのり決定した。

2024年度役員名簿及び任務分担

役職名	氏名	専・非	任 務	担当支部
執行委員長	大谷 清	専	総括	
副執行委員長	武智 義治	〃	業務、政治・共闘部長、四交運事務局長	香川 徳島
〃	中野 圭司	〃	組織(出向・関連企業)、安全、教育、調査部長	愛媛 高知
書記長	中村 鉄平	〃	総務、企画、財政、法対、事業部長、部会担当	自動車
執行委員	和田 庄平	〃	政策、情宣部長、青女(男女平等)、レク・サークル担当	本 社
〃	杉本 慶太	非	組織副部長	香 川
〃	山本 鉄平	〃	政治・共闘副部長	愛 媛
〃	笹岡 慎平	〃	事業副部長	徳 島
〃	河野 憲司	〃	業務副部長	高 知
〃	寶田 晃	〃	政策・調査副部長	本 社
〃	岩本 敏幸	〃	教宣副部長	自動車
〃	土井 俊哉	〃	出向・関連企業担当	香 川
〃	今井 勇樹	〃	出向・関連企業担当	愛 媛
〃	尾上 連太郎	〃	出向・関連企業担当	徳 島
〃	今村 健一	〃	出向・関連企業担当	高 知
〃	西浦 慧	〃	出向・関連企業担当	本 社
〃	仲田 幸平	〃	出向・関連企業担当	自動車
〃	玉井 江吏香	〃	男女平等担当	愛 媛
特別執行委員	石川 敏也	専	J R 連合派遣	
〃	藤岡 祐自	非	青年女性会議	
〃	香西 若菜	〃	青年女性会議	
会計監査	三好 幸治	〃		
〃	岡本 茂	〃		
〃	河野 勉	〃		

以上

大会宣言

J R四国労組は本日、J Rホテルクレメント高松において「団結 創造 実践 すべての組合員と家族の明るい未来を実現させるべく 『ユニオンビジョン2023』の深度化を図り 誇りを持ち安心して働き続けることのできる環境づくりを推し進めよう！」をスローガンに掲げ、第43回定期大会を開催し、この間の運動の成果を確認するとともに、真摯で活発な議論を通じ、2024年度の運動方針を満場一致で決定した。

J R四国・ジェイアール四国バスを取り巻く環境は、コロナ禍を抜け、明るい兆しが見えつつあるものの、少子高齢化や人口減少、物価高騰に加え、記録的な円安の進行など急激に変化する社会情勢によって、厳しさに拍車がかかっている。さらに、労働市場の流動化を背景に、将来への不安感等から離職する組合員に歯止めがかからず、屋台骨である人財基盤が危機的状況にある。

私たちJ R四国労組は、矢継ぎ早に実施される各種施策に対して「安全」と「雇用」を第一義に労使協議に臨むとともに、現下の離職拡大に対しても労働条件の改善等を通じ「人財の確保・定着」に取り組んできた。本年度は「中期経営計画2025」の達成に向け、まさに正念場となる一年であり、労使が一体となって目標達成に取り組むべく、J R四国・ジェイアール四国バスの責任組合として、次の三点を基調として実践する。

- 1 「安全・安定・安心輸送の確立」を最重要課題に、足元で深刻化する要員不足が安全に支障をきたしてはならないという認識のもと、真摯な労使協議に基づきチェック・提言機能を発揮し、グループ会社・協力会社を含め安全最優先の職場風土づくりに向けた取り組みを展開する。
- 2 J R四国グループの成長・発展には、「J R連合ビジョン」に掲げる健全な労働組合と建設的な労使関係の構築が必須であり、「多様性と包摂」を念頭に組合員一人ひとりと向き合い、コミュニケーションの充実と全ての仲間が参加しやすい組織づくりを進める。とりわけ、女性役員を中心とした新たな活動を展開し、女性の参画機会の創出を図り、各機関の連携を深めていく。
- 3 事業運営に不可欠な「人財の確保・定着」に向けて、ベースアップをはじめ賃金改善の流れを継続し、着実に積み上げていくとともに、誰もが安心して働くことのできる環境づくりに向け「ユニオンビジョン2023」に掲げる各種方策の実現を目指す。あわせて労使で解決できない政策課題を解決していくべく、そのために必要な政治活動にも取り組む。

私たちはコロナ禍を経て、「産業の転換期」「第二の創業期」に直面しているといえる。この新たな試練には世の中の変化の激流に晒されようとも、強くしなやかに乗り越えていくことが求められている。J R四国グループに働く者としての強い信念と柔軟な発想を胸に、私たちが社会的使命を日々果たし、着実に歩みを続けることこそが、その道のりを明るい未来へと繋げるものと信じ、一人ひとりが自信と誇りを持ち、様々な課題に立ち向かっていかなければならない。

私たちは責任組合として組合員同士の強固な団結のもと、これらの課題解決にとともに取り組み、将来に亘り責任を持ったJ R四国労組運動を、全組合員が協力一致して展開していくことをここに表明する。

以上、本大会の総意として宣言する。

2024年7月5日

四国旅客鉄道労働組合
第43回定期大会